

技術開発部報告書情報シート

記入年月日：2010年7月26日

情報No	K-10-3	情報区分	プラ処理協研究報告	ファイリング場所	プラ処理協書棚
------	--------	------	-----------	----------	---------

題名	東京都一般廃棄物におけるプラスチック製容器包装の分別区分変更に伴うLCA調査 - 区				
報告書名	収集の不燃ごみから資源ごみと可燃ごみへ				
報告年月	2010年3月	ページ数	55	著者・出版元	プラ処理協

【キーワード】

処理方式	サーマルリサイクル、マテリアルリサイクル、分別収集法	要素技術	LCA、環境負荷評価
樹脂類別	容リプラ、プラスチック一般	化学物質名	
形状別	容器包装	用途別	
法規制		国別	日本

調査研究内容	<p>東京都23区では、最終処分場延命措置として、これまで不燃ごみとして収集していたプラスチックの分別区分を可燃ごみと資源ごみに変更し、サーマルリサイクル（TR）を実施することになった。そこで、この政策変更がほぼ全面的に実施された2008年10月の前後における環境負荷（CO₂換算排出量）と資源節約量の評価を実施し、使用済みプラスチックの処理・処分に関する政策の議論への基礎データを提供することとした。今回はプラスチック製容器包装の分別区分が不燃ごみから可燃ごみへ移行することに伴う、区収集の可燃ごみと不燃ごみの処理・処分の環境負荷の評価を対象とし、資源回収については、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」（容リ法）に基づく、その他プラスチックのみを評価に含めた。</p>
調査研究結果	<p>TR実施前の2007年度と、実施後の2008年度（未実施の上期含む）の23区収集一般廃棄物を比較した。その中のプラスチックについては、TRと、容リ法に基づく、その他プラスチックの収集処理が増加し、埋立処理が半減している。その結果として、廃棄物処理によるCO₂換算排出量については、プラスチックのTRによるものは増大しているが、有機ごみの埋立処理によるものが激減しているために、全体としては減少している。この理由は同伴埋立処理される有機ゴミが発酵して発生するメタン量が、埋立処理の減少により激減しているためである。ちなみにメタンは温暖化への影響はCO₂の21倍である。すなわち有機ゴミは燃やすとカーボンニュートラルであるためにCO₂換算排出量はゼロであるが、埋め立てるとメタン発生によってCO₂の21倍として評価されるので、プラスチックの焼却により発生するCO₂増加量をはるかに上回る。</p> <p>現状ではLCAでは評価されていない、埋立地不足の解消、衛生上の観点からも可燃分を全て焼却処理してエネルギー回収する（TR）は、バランスの取れた処理法であると言える。</p>
備考	